城東中学校だより

【カラー版を、ホームページに掲載しています】

NO.17　2024.2.21

発行者　城東中学校長

TEL　26－7022

卒業式について！

本年度の卒業式につきまして、昨年度同様に卒業生・在校生ともに全員が式場に入り、式に参加します。保護者の皆様につきまして、昨年度のような人数制限は行いません。

2年生が人権学習をしました！

2月1日（木）午前に、（公財）反差別・人権研究所みえの本江優子さんを講師にお招きし、2年生が人権講演会を行いました。無関心や無知、自分には関係ないという意識が差別を残し、助長する要因であることをお話しいただき、普段何気なく使っている「ふつう」や「あたりまえ」が、それで良いのかを振り返ることができました。人権学習とは、「誰かのためではなく、自分のため」「無意識の偏見や思い込みにとらわれないため」「自分の気持ちを伝え、相手の気持ちが分かるようにするため」の学習であるというメッセージが生徒に届き、講演会後の振り返り学習の中で感想に綴ったり、なかまに発信している姿が見られました。

＜生徒の感想＞

○私は、それぞれの立場のお話が心に残りました。特に無関心の立場にいるということが、差別を助長してしまっているのだと分かりました。しかも、無関心は差別する側・される側のどちらにもなり得るということを知りました。このことをうけて、私は無関心の立場でいたくないと思いました。「差別的な考え方をもち、差別を助長している人によって、差別が起きるのだ」と分かりました。差別について理解を深めず、ただ自分のことだけを考えていくと、結果的には差別が増えてしまいます。自分が差別をしないという確証はないので、これからも差別について学習を続け、自分の中の「差別的な考え」や「自分でなければいい」などの、差別につながるような考え方をなくしていく必要があると強く感じました。

○自分は、差別やいじめ、偏見などの人権問題について今まで無関心で、自分はしてないし、されてもないからめんどくさく感じていて、周りのちょっとした悪口や陰口にも気づこうとしていなかったと思いました。たまに自分でも愚痴を言って、人間が差別をなくすのはどれだけ頑張ってもできないと思っていました。だけど、本江さんみたいに、「差別やいじめをなくすために行動する人」が、人数は少ないかもしれないけれど絶対にいて、今でも人のために動いて人権の大切さを伝えてくれるから、自分もずっと傍観者でいるんじゃなくて、なくすために行動する人に近づきたいです。傍観者は、加害者にもなる可能性があることを知って、そんなことはしないと思ってても周りがやってたら、流されるかもしれないから、無意識に差別を支える人にならないようにしたいです。人権意識について改めて考え直して、まずは、知ろうとすることから始めていきたいです。

○差別をなくすためには、自分を好きになる、自分を大事にすることが大切だということです。そのことは、差別をなくすためにはあまり関係がないと思っていました。自分のことを大事にできない人が友だちを大事にできるわけがないし、自分を大事にできる人こそ、周りの人にも優しく話して、差別をなくすことができるんだと思いました。そして何気なく使っている普通が相手を傷つけて差別しているなんて、気がつきませんでした。私は今まで普通のことなのに、なぜできないんだろうとか、普通はたくさん使ってきました。私にとっての普通なのに、相手にとっての普通は違うことに気がつかず、無意識に差別していることに気がつきました。無意識ということは怖いことだなとあらためて実感しました。

1年生が人権学習をしました！

2月8日(木)午前に、1年生に向けて「自分らしく生きるために～伊賀で実現できた僕らの生活～」というテーマで、伊賀市パートナーシップ宣誓制度を利用し、伊賀市に移住された加納克典さんと嶋田全宏さんを講師にお招きし、人権講演会を行いました。性の多様なあり方や、自分の性的指向について悩み、周囲に知られないように偽っていたときは生きづらかったこと、人との出会いを通して自分らしく生きていること、伊賀市に移住してからの生活、LGBTQ+に関わる社会の動きなどについて、生徒たちの事前アンケートの質問に回答していただきながらご講演いただきました。お二人のお話から、性のあり方は多様で「みんなちがって当たり前」であるということ、自分たちは「当事者がいることを前提」とした社会をつくっていくこと、その社会をつくる一員としてLGBTQ+について「無関心であっても、無関係ではいられない」のであり、当事者だけではなく一人ひとりがその課題を自分事として捉え、「知る→ 考える→動く」ことが、みんなが自分らしく生きられる社会にしていけるということを学びました。

＜生徒の感想＞

○加納さんと嶋田さんの話を聞いて、性的マイノリティであることを伝えにくかったり、いじめられたりしてつらい思いをしたのは周りのせいだから、「みんな違って当たり前」ということを忘れないようにして、自分のことを言いやすい環境にして行きたいと思った。

○嶋田さんは、男性は女性を好きになるという勝手なイメージで苦しめられていたと知った。それはおかしいと思うから、まず周りが男性が男性のことを好きになることもあるし、女性が女性のことを好きになることもあると理解する必要があると思った。最後に話してくれた「知る→ 考える→動く」っていうのはとても大切だと思った。今自分は学習してたくさんのことを知り考えることができているけど行動するところまで出来ていないからちゃんと考えたことを生かして行動しようと思った。もしかしたら自分の身の回りにもカミングアウトできないだけで、同性を好きな人もいるかもしれないから、そういう人たちが傷つかないような行動を日頃からしていく。

○新しくアロマンティック「恋愛しない人」という言葉を聞いて、「好きな人誰？」とかよく聞いたりするから、好きな人ができない人はいないと思っていました。自分は差別してないと思い込んでいたのに、知らない言葉があるということは知らないところで差別していることにもなるということが分かりました。オカマやホモなどの言葉も使ってほしくないと言っていたので馬鹿にする言葉を使わないでおこうと思います。

○加納さん嶋田さんのお話を聞いて、昔はマイノリティの人のことを学んでいなかったから差別が多かったのだとわかりました。だから学校で人権についてを学ぶことの大切さは大きいと思います。パートナーシップ宣誓制度を利用して、「いない者」だと感じていたことが「いる者」に変わったということが、パートナーシップ宣誓制度はとても大切なことだとわかりました。カミングアウトをしたい人で相談する人がいない人が私に相談してもらえるような人になりたいと思います。これからもっと学んで考えて差別をしないように力をつけたいです。伊賀市がマイノリティの人以外の人もすごく協力的でALLYである人が多くて伊賀市のことをもっと好きになりました。

○お話を聞いて一番印象に残った言葉は、「無関心であっても無関係ではいられない」という言葉です。私は今まで性のことにそこまで関心があったわけじゃなくて自分には本当は関係のないことだと思っていました。けれど自分のすぐ近くに性的マイノリティの人がいるかもしれないと思うようになりました。「当事者がいることが前提」という考えを大事にしたいと思いました。「みんな違って当たり前」という言葉は周りの人にも自分にも大切なことだと思いました。